はしがき

私たちが充実した人生を送るためには、現代社会の重要課題に取り組んで、その解決をめざすことが求められるでしょう。現代社会においては日常生活の細部に至るまでグローバル化が進んでいますが、他方で、国と国の利益が競合して衝突が起きる場合も少なくありません。AIの活用は知識や情報の在り方を一変させましたが、人間が人間としての思索や感情を育みつつAIと共存していくためには、さらなる検討が必要になると思います。地球環境の変化も喫緊の課題です。それは、私たちの生活の在り方をどうコントロールできるか、という問題と結びついているのではないでしょうか。

このような現代社会の課題解決と今後の新しい社会創造にあたって、大学生である皆さんの英語力は不可欠です。というのも、英語母語話者のみならず、世界中の多くの人々の考えや社会の在り方を英語の情報によって知ること、そしてその中で自らの観察や思索を研ぎ澄まし、海外の人々とコミュニケーションを取りながら自分のアイデアや思いを英語で発信していくことが、どうしても必要になるからです。

本書 *Aspects of British Literature—Academic Approaches* は、このようなニーズを考え、本格的な英語力を身に付けたいと願う皆さんのために制作されました。人文、社会、自然の諸科学にわたって専門的な研究の出発点としての英語学習であってほしいと考え、副題を*Academic Approaches*としています。これが、類書には見られない特徴の一つです。本書のもう一つの特徴は、全ての章において文学作品からの引用がある、という点です。なぜ、文学作品からの引用を含んでいるのか。理由は二つあります。一つは、的確で洗練された英語表現が文学作品には集約されており、それをもとにした言語学習こそ、本格的な英語力習得には不可欠であると考えたこと、そしてもう一つは、各専門分野の知見を社会実装する際の長所や短所、賛否、共感や反感を文学作品は見事に描いている、といえるからです。専門的な知見は、それを単に説明するだけでは無味乾燥なものになりやすい。社会的に実践されたときに人々が感じる賛否の思いがあってこそ、今後の新しい創造につながるのではないでしょうか。

本書には、リーディング教材を軸として各種の問題演習が設けられていますが、それらはいずれも、英語情報を正確に理解し、その内容を自律的に整理しつつ、情報発信につなげられるように工夫されています。実際の英語運用に不可欠な音声面への配慮も行き届いています。「本書の構成と使い方」も併せてご覧いただき、存分に使いこなしていただければと思います。本書の各章の英文には、皆さんの知識や思索に大きなインパクトを与える内容がぎっしり詰まっていますので、それらを通じてアカデミックな関心を培いつつ、英語の実力を確かなものにしていただきたいと願っています。

著者一同

Contents

本書の構成と使い方 …… 6

Part I Diversity

Introduction …… 8

Chapter 1

A Nation of Diversity …… 10

Kazuo Ishiguro, *A Pale View of Hills* (1982)

Chapter 2

England, Wales, Scotland, and Northern Ireland …… 16

Maria Edgeworth, *Castle Rackrent* (1800)

Chapter 3

The Power of the Commonwealth …… 22

Rudyard Kipling, *The Ballad of East and West* (1889)

Chapter 4

The Birth of Cultural Studies in the UK …… 28

Raymond Williams, *The Country and the City* (1973)

Part II Communication

Introduction …… 34

Chapter 5

The Languages of the UK …… 36

William Shakespeare, *Hamlet* (1602)

Chapter 6

The Development of Journalism in the UK …… 42

Oscar Wilde, *The Importance of Being Earnest* (1895)

Chapter 7

A Vessel of Worldwide Art and Culture …… 48

Lewis Carroll, *Alice's Adventures in Wonderland* (1865)

Chapter 8

The Relationship between Japan and the UK …… 54

Jonathan Swift, *Gulliver's Travels* (1726)



Part III Institutions

Introduction 60

Chapter 9

The History of British Democracy 62

John Stuart Mill, *On Liberty* (1859)

Chapter 10

The British Debate about the Economy 68

Elizabeth Gaskell, *Mary Barton* (1848)

Chapter 11

Two Cultures: The Development of the Natural Sciences ... 74

C. P. Snow, *The Two Cultures and the Scientific Revolution* (1959)

Part IV British Common Sense

Introduction 80

Chapter 12

A Nation of Satire 82

George Orwell, *Animal Farm* (1945)

Chapter 13

Nature and British People 88

Beatrix Potter, *The Tale of Peter Rabbit* (1902)

Chapter 14

An Oxbridge Education 94

Evelyn Waugh, *Brideshead Revisited* (1945)

Chapter 15

British Community Life 100

George Eliot, *Silas Marner* (1861)

本書の構成と使い方

ここでは、*Aspects of British Literature—Academic Approaches* の構成や問題演習の内容、そのねらいなどをまとめています。本書の特徴をよく理解して存分に使いこなしてください。

I. 本書の構成

本書は、アカデミックな形でイギリスの文学や文化にフォーカスしながら、さまざまな学問分野の基盤として有益な内容を厳選して英語教材にまとめています。Part I から Part IV まで 4 つのパートに分かれていますが、この分類はイギリスの文化的特徴を示すとともに、さまざまな学問分野への切り口にもなっています。

II. 各章のタスク

1. **導入文**：各章の冒頭にあって、その章で学ぶ文化的内容を日本語で簡潔に整理しました。**Reading Passage** の内容について、この導入文から予測してください。

2. **Warm-Up**：各章の内容にかかわる準備的な英問英答です。これまで意外に気づかなかったというような事項も含まれています。よく考えて英語で答えましょう。視覚情報を言葉にする練習もあります。

3. **Vocabulary Building**：ある単語を別の単語で置き換えたり、英語で説明したりすることのできる語彙力は、非常に重要です。ここでは、各章に出てくる基本的あるいは鍵となる単語について、その定義や同義語を英語で確認していきます。また、**Reading Passage** で当該の単語が出てきたら、すぐに英語での意味や同義語に置き換える練習もしてみましょう。

4. **While Reading**：英文を読んでいて、最初は内容が頭に入ってくるのに、途中から文脈が分からなくなるということがあります。それは、英文読解の集中力が持続しないためなのですが、集中力を持続させるには、「何について語っているのか」ということを常に意識していることが肝要です。この **While Reading** では、そのための手助けをあらかじめ日本語で示してありますから、その内容をいつも意識するよう心がけてください。やがて、日本語の手助けがなくても集中力が持続するようになります。

5. **Reading Passage**：各章の中心となる**Reading Passage**は、いずれも、この教科書のための書き下ろしで、大学での使用を想定したアカデミックな内容です。学習者向けに易しくしているというようなことは一切ありませんから、ホンモノの英語情報だと思って、英文理解に努めてください。そして、英文の意味を正確に把握できているか不安な箇所は、授業で積極的に確認したり高校までの学習内容を復習したりしてください。文章を一度しっかりと把握できれば、次に同じ文章を読む際に、スピードも上がります。繰り返し読む練習は、英文読解力のみならず、ライティングやリスニング、スピーキングの実力向上にも役立ちます。補足説明が必要と思われる箇所には NOTES がありますから、適宜、参考にしてください。

6. **Getting the Gist**：**Reading Passage**の英文を確実に理解した上で、ここではTrue or False形式のリスニング問題を解きます。本文の趣旨を誤解していないかどうか、確認してください。

7. **Looking into the Details**：こちらも**Reading Passage**の内容確認となりますが、今度は、英問に対して英語ライティングで答えたり、図表を英語で完成させたりする形式です。英語ライティングの場合、英単語１語で済ませるのではなく、文で答えられるようにしましょう。

8. **Summarising**：**Reading Passage**の内容を頭に入れた上で、その内容を英語で要約します。空欄補充形式の問題ですが、**Reading Passage**の文脈やキーワードをしっかり理解していないと答えられません。この問題に答えつつ、もう一度**Reading Passage**を集中して読んでください。文中のどの箇所が言及されているのかを確認しましょう。

9. **Conversation and Writing**：ここでは、各章のテーマを会話表現に展開します。Professor Halladayと学生のやり取りという形になっています。場面として設定されているのは日本の大学の教室ですが、ちょっと留学した気分で取り組むとライティングの力もつき、楽しい英会話につながるはずです。

10. **Extra Activities**：各章の学習内容に関連させつつ、1 はディスカッションのテーマを、2 はぜひ覚えておきたい英語表現を示してあります。英会話や英語ライティングの実力向上に向けてどんどん活用しましょう。これまで気づかずにいた英語のツボが見えてきます。

Part II

Communication

イギリスが多様性に富む国である、ということは、Part Iを通して理解できたかと思います。しかし、そうした多様性を培い、維持・発展させていくためには、さまざまな工夫や努力が必要になります。この点でイギリスは、どのような特徴を持っているのでしょうか。

ここでなんといっても注目したいのは、英語という言語を通じたコミュニケーション力が際立っている、ということです。今日、英語が国際的に通用する言語として、世界各地で重視されていることはいうまでもありません。だからイギリスは、その恩恵に浴している、ともいえるでしょう。しかし、そのような国際語としての性格を帯びるはるか以前から、英語はイングランドとウェールズ、スコットランド、アイルランドを結びつけるコミュニケーションに不可欠であったばかりでなく、ヨーロッパ諸国はもちろん、アフリカや中東地域、あるいは遠くアジアの人々との交流に寛容な言語だったのです。シェイクスピアが実に多くの語彙や独特の表現を生み出せたのも、英語が海外から訪れる人々のさまざまな言語を貪欲に吸収して自らを豊かに伸ばしていくような性質を有していたからにほかなりません。考えてみれば、イギリスはブリテン島に住んでいたケルト人に始まって、ローマ人、アングロ・サクソン人、ノルマン人、アラブ人など、実に多くの人々とその言語を受け

入れつつ、今日の姿を形作ってきました。古英語から中英語、近代英語へと推移する中で、英語はドイツ語的でもありフランス語的でもあって、しかもそのどちらでもない、といった性格を持つに至ったのです。

今日、英語帝国主義、といわれることがありますね。国際語としての単なる道具の域を越えて、英語使用が国際政治や世界経済、文化・社会の在り方に大きな影響を与えているとする考え方です。実際、イギリスが大英帝国としての世界的な覇権を持つに至って、英語使用は世界各地に広がり、それが今日の国際語としての英語の基盤になっていることは間違いありません。その是非を真剣に考えてみることは極めて大切なことです。ただもうひとつ忘れてはならないのは、イギリスが、そして英語が、いわば垣根を低くして多様性を受け入れ、その結果として国際語としての英語が生まれてきたという経緯です。英語は、宮廷の言語としてではなく、多くの人々が国境をも越えて共有できる言語として発達し、いち早く日常的な書き言葉としての散文を確立してジャーナリズムの発展を促しました。近代イギリス小説の興隆もそうした言語基盤があってのものでした。Part IIでは、そうしたイギリスのコミュニケーション力の精髄と多様な在り方を、シェイクスピア、ワイルド、キャロル、スウィフトの作品を通じて考えてみましょう。

Chapter 8

The Relationship between Japan and the UK

Jonathan Swift, *Gulliver's Travels* (1726)

日本とイギリスの間には時差が９時間（夏は８時間）もありますが、それにもかかわらず、古くから実にさまざまな交流がありました。そのことを非常によく示しているのが、ジョナサン・スウィフトの『ガリヴァー旅行記』でしょう。なにしろ、18世紀初頭の1726年にロンドンで刊行されたこの作品では、主人公が訪れる唯一実在の島として日本が描かれているのですから。世界的名作誕生の背景に、日本に対するイギリス人のどんな想像力が働いていたのでしょうか。

Warm-Up

次の１～３について、クラスメートと話し合いましょう。

1. Have you ever read *Gulliver's Travels*, either in English or in Japanese? If so, what was your impression of it?

_____

2. What activities or places would you recommend to British people visiting Japan for the first time?

_____

3. Which people are shown in the following pictures? What do you know about them?

① Kazuo Ishiguro: a Nobel Prize-winning British novelist, born in Nagasaki (　　)

② Soseki Natsume: a famous Japanese writer who wrote *I Am a Cat*, *Botchan*, *Sorekara,* and several other works (　　)

③ Hiroyuki Sanada: a Japanese actor who won a Golden Globe Award for his role in the television series *Shogun* (　　)

a.



(EPA=Jiji)

b.



(PA Images/Jiji Press Photo)

c.



(Public domain, via Wikimedia Commons)

Vocabulary Building

DL 23 CD1-80

次の語に最も適切な定義や同義語を選んで記号で答えましょう。

1. account	(　)	**6.** fascination	(　)
2. casual	(　)	**7.** observer	(　)
3. depiction	(　)	**8.** solemn	(　)
4. eventually	(　)	**9.** strait	(　)
5. extensive	(　)	**10.** underway	(　)

a. a description of something in words or through painting
b. a narrow passage of water connecting two seas or large areas of water
c. a person who watches something or someone
d. a report or description of an event or experience
e. attracting the strong attention and interest of a person or people
f. covering or affecting a large area
g. formal and dignified
h. happening now, in progress
i. in the end
j. relaxed and unconcerned

While Reading

次の点に注目しながら本文を読みましょう。

1. 日本とイギリスの主な類似点には何があるだろう。
2. 日本とイギリスの関係はどのくらい続いているのだろう。また、その関係はいつ、どのように始まったのだろう。
3. 日本とイギリスの関係において重要な人物や出来事は何だろう。



English Couple (*Igirisujin*) by Utagawa Yoshitora (Public domain, via Wikimedia Commons)



The Empire of China and the Island of Japan by Herman Moll (Courtesy of Noriyuki Harada)

Reading Passage

CD1-81 ~ CD1-88

Japan and the United Kingdom have a surprising amount in common, although it may not always seem so to the casual observer. Both are island nations, and both are next to much larger landmasses. Both have been empires, both have historically had societies based on class, and both value good manners and personal space above all else. Perhaps it is for some or all of these reasons that many people of one country often remark how comfortable they are in the other, despite surface differences in language, food, and other areas.

European fascination with Japan goes back to the late thirteenth century, when Marco Polo brought back tales of the exotic East from his extensive travels. Descriptions of the country appeared in English in 1577, with an article by Richard Wylles entitled *Of the Ilande Giapan* appearing in a book on travel.

In 1600, the British adventurer William Adams landed at Usuki in Oita, eventually becoming a samurai, although the two countries would not become close until more than two hundred years later. The excerpt below from *Gulliver's Travels* in 1726, where Lemuel Gulliver finds himself in Japan, reflects the idea of the country as a kind of magical, unreal location in the British eighteenth-century mind.

> There is indeed a perpetual commerce between this kingdom and the great empire of Japan; and it is very probable, that the Japanese authors may have given some account of the *Struldbrugs*; but my stay in *Japan* was so short, and I was so entirely a stranger to the language, that I was not qualified to make any inquiries. But I hope the *Dutch*, upon this notice, will be curious and able enough to supply my defects. ...
>
> On the 6th day of May, 1709, I took a solemn leave of his majesty, and all my friends. This prince was so gracious as to order a guard to conduct me to *Glanguenstald*, which is a royal port to the south-west part of the island. In six days I found a vessel ready to carry me to *Japan*, and spent fifteen days in the voyage. We landed at a small port-town called *Xamoschi*, situated on the south-east part of *Japan*; the town lies on the western point, where there is a narrow strait leading northward into a long arm of the sea, upon the north-west part of which, *Yedo*, the metropolis, stands.

Gulliver's encounters with fantastic creatures and locations of all types, from giants and talking horses to cities floating in the air, seem to fit well with the exotic land of the passage above, making it the perfect point of return to the 'real' world in the novel, and showing how people understood Japan in Britain at the time.

About one hundred years later, Japan and Britain signed a friendship treaty in 1854. However, the great distance and difficulty of travel meant that people in the UK

knew *of* Japan but didn't know much *about* it, and the same was true of people in Japan. This led to the popularity in England of works such as *The Mikado*, a 'Japanese' musical by W.S. Gilbert and Arthur Sullivan, from 1885. It was fanciful and not a very accurate depiction of the people or the country, yet was part of a general fascination with Japanese culture. This interest was certainly returned by Japanese artists and writers in the same period. For example, an 1860 *ukiyo-e* print called *Igirisujin*, or *An English Couple* by Utagawa Yoshitora shows a woman on horseback attended by a British man, complete with beard, cigarette, and bowler hat.

By the twentieth century, important Japanese figures such as Soseki Natsume and Yonejiro Noguchi, known as Yone Noguchi in the West, were choosing to spend time in London, looking for creative inspiration. Lafcadio Hearn, born in Lefkada, a British protectorate, lived in Japan and taught at Tokyo Imperial University (later the University of Tokyo). The British Council was established in Japan in the middle of the century and British popular music gained a huge number of new fans when The Beatles performed at the Nippon Budokan in 1966. The future Emperor of Japan, Naruhito, studied at the University of Oxford, and many young British people came to Japan under the JET (Japan Exchange and Teaching) Programme. It was an exciting time for the relationship between both countries.

Japan and the United Kingdom have further deepened their economic, political, and cultural ties in the twenty-first century. If you visit London, you will find sushi shops and art galleries selling Japanese prints everywhere. In Tokyo, you can buy British tea or clothing at many stores, then go out to a traditional English pub for a plate of fish and chips. Now, as the twenty-first century is underway, the two nations have a stronger bond of friendship than ever.

(802 words)

NOTES

l.9 **Marco Polo:** マルコ・ポーロ（1254頃–1324）。イタリアのヴェネツィアの商人で、自身の旅の経験を『東方見聞録』に著した。 *l.10* **Richard Wylles:** リチャード・ウィリス（1546–1577）。『日本島について』はロンドンで出版された。 *l.12* **William Adams:** ウィリアム・アダムス（1564–1620）。日本名、三浦按針。オランダ船リーフデ号で豊後国（現在の大分県）臼杵に漂着。 *l.14* ***Gulliver's Travels*:**『ガリヴァー旅行記』。アイルランド出身の作家ジョナサン・スウィフト（1667–1745）作。1726年、ロンドンで刊行された。小人国（リリパット）や大人国（ブロブディンナグ）を訪れる主人公の奇想天外な冒険は日本でもおなじみだが、彼は、空飛ぶ島（ラプータ）訪問の後、日本にも上陸している。 *l.35* **a friendship treaty in 1854:** 日英和親条約。日本とイギリスの間で締結された最初の条約。 *l.38* ***The Mikado*:** 1885年初演のコミック・オペラ。日本風の登場人物を通じて当時のイギリス政府を諷刺したもので、現在でもイギリスでたびたび上演される演目。 *l.42* ***Igirisujin*:** 歌川芳虎（生没年不詳、江戸時代末期から明治時代中期にかけて活躍した浮世絵画家）による浮世絵。 *l.46* **Yonejiro Noguchi:** 野口米次郎（1875–1947）。英米で活躍した詩人、小説家、評論家。 *l.47* **Lafcadio Hearn:** ラフカディオ・ハーン（1850–1904）。日本名、小泉八雲。小説家、随筆家、英文学研究者。ギリシャに生まれ、アイルランドで育ち、アメリカでジャーナリストととして活躍した後に来日。 *l.49* **The British Council:** ブリティッシュ・カウンシル。1934年にイギリス政府によって設立された公的な国際交流機関。 *l.51* **The future Emperor of Japan, Naruhito:** 今上陛下（1960–）。日本の第126代天皇陛下。お名前は徳仁。オクスフォード大学マートン・コレッジに学ばれた。 *l.53* **JET (Japan Exchange and Teaching) Programme:** 語学指導などをおこなう外国青年招致事業。

Getting the Gist

DL 24 CD1-89

音声を聞いて、本文の内容と合うものにはTを、異なるものにはFを記しましょう。

1. (　　)　**2.** (　　)　**3.** (　　)　**4.** (　　)　**5.** (　　)

Looking into the Details

本文を参照しながら、次の表を完成させましょう。本文にない情報は、インターネットなどで調べましょう。

Who	When	Where	What
Richard Wylles	1577	**1.** _____	wrote an article about Japan
Willam Adams	**2.** _____	Japan	landed in Japan and became a samurai
Soseki Natsume	20th century	Britain	**3.** _____
The Beatles	**4.** _____	Japan	performed at the Nippon Budokan
Naruhito	**5.** _____	Britain	**6.** _____ _____
You (or choose a person)	**7.** _____	**8.** _____	**9.** _____ _____

Summarising

次の空所に適当な語句を入れて、本文の要約を完成させましょう。

Japan and the United Kingdom share (**1.** **s**) as island nations with histories of empire, class-based societies, and an emphasis on manners, which aids in mutual (**2.** **u**). European interest in Japan began in the thirteenth century with Marco Polo, and descriptions in English appeared by the late sixteenth century. Early contact included the arrival of William Adams in 1600, though it took longer for a (**3.** **c**) relationship to develop. In the eighteenth century, works like *Gulliver's Travels* depicted Japan as (**4.** **e**) and mysterious, reflecting British perceptions of the time. Limited knowledge and difficult (**5.** **t**) in the nineteenth century resulted in fanciful representations such as *The Mikado*, while Japanese artists also depicted Britain through their own cultural lens. By the twentieth century, cultural exchanges expanded through writers, students, (**6.** **m**), and organisations. Today, both nations enjoy strong (**7.** **e**), political, and cultural connections, apparent in the widespread sharing of food, art, and tradition.

Conversation and Writing

DL 25 CD1-90

本文の語句を参考にして、(　　) 内の日本語に合うように次の会話を完成させましょう。完成したらクラスメートと共有し、役割を決めて練習しましょう。

Prof. Halladay: Today, we will start with a discussion about [1.] _____

_____.

(日本とヨーロッパの関係の始まり)

Hiro, do you know how it started?

Hiro: In a sense, it started in Europe, not in Japan. It wasn't a mutual one, either.

Prof. Halladay: That's right. [2.] _____

_____ through his tales of the exotic East in the thirteenth

(日本はマルコ・ポーロにより初めて紹介されました)

century. But almost all Japanese didn't know of Europe at that time.

Hiro: I learned that in 1854, Japan and Britain signed a friendship treaty. It was the real beginning of our mutual relationship, wasn't it? But regrettably, in World War II [3.] _____

_____.

(両国は敵味方に分かれて戦い、それは変わりました)

Prof. Halladay: Have you ever had any personal experiences that reflect our current good relationship, Hiro?

Hiro: Yes. We had an ALT in our high school and had a very good time then. [4.]_____

_____

_____ as well as in class.

(彼は課外活動を通して、私たちに英語の日常表現を教えてくれました)

Extra Activities

1 Discussion

次の1・2について、クラスメートと話し合いましょう。

1. What do you think about cultural similarities and differences between Japan and the UK?
2. Why do you think Jonathan Swift chose to describe Japan in *Gulliver's Travels*?

2 Words to Remember

次はTom Hitchensの有名な言葉です。この言葉に込められた意味について考え、クラスメートと話し合いましょう。

'The relationship between Japan and Britain has been a voyage of discovery. We have discovered a great deal about each other'. (*Japan is Back, Britain is Back*, 2014)